

平成 21 年度卒業論文

「トルコ語の関係節における olan の用法」

東京外国語大学 外国語学部
南・西アジア課程 トルコ語専攻 4 年
学籍番号 8506064
伊藤 絵梨奈

指導教員：菅原 睦教員

(40 字×36 行)

目次

0. はじめに	3
1. 先行研究	4
1.1 olに関する先行研究.....	4
1.2 olanに関する先行研究.....	4
1.2.1 Ozil(1998).....	4
1.2.2 Göksel&Kerslake(2005)	4
1.2.3 林(1995)	7
1.2.4 Lewis(2000).....	8
2. 分析	9
2.1 主要部名詞の定不定に関して	10
2.2 情報の新旧に関して	14
3. その他の用法.....	17
3.1 -(y)EcEKの目的用法.....	17
3.2 外の関係	18
3.3 関係節の形容詞化.....	22
4. おわりに	23

0 はじめに

トルコ語の動詞の中で、最も使用法が多い動詞は *ol-* ではないだろうか。一般動詞としては、「～である；～になる；～にいる(ある)；起こる」など様々な意味で用いられる。また、日常会話で用いられる慣用表現にもよく使用される。加えて、*ol-* には補助動詞としての用法があり、主節、関係節、形動詞で、動詞と複合して現れる。補助動詞としての *ol-* も、例えば主節と関係節とでは、その用法は異なっていると言われている。この動詞 *ol-* の多様性について興味を持ったことが本研究のきっかけとなった。

補助動詞としての用法の一つである関係節内での *ol-* は、形態的な要求でのみ現れ、それ自身は意味を持たないとされている。その中でも関係節に現れる *olan* は、例えばトルコ語の教科書や参考書などでは、*olan* は省略してもよい、などあいまいな表現で書かれていることが多い。またその例文等でも (*olan*) といったように括弧つきで書かれている姿をよく目にする。ではネイティブスピーカーでない私たちは、本当にこの *olan* を適当に使ったり使わなかったりしてもよいのだろうか。ネイティブの人々の間には、省略するときとしないときに何か傾向はないのだろうか、という疑問を持った。

そこで本稿では、関係節での *olan* に関して、トルコの新聞記事の文章を用いながら、先行研究に基づいて、どのように *olan* が使用され、また省略されるのかについての傾向を分析することを試みた。

近年出版されたトルコ語の文法書である Göksel&Kerslake(2005:452)によると、*olan* を含む関係節は、

- ・ *-(y)EcEK+olan*
- ・ *-mİş+olan*
- ・ *-mAkta+olan*
- ・ *-mAz+olan*

の4パターンであるが、その中で、*olan* なしでも関係節であられるのは、*-(y)EcEK+olan* と *-mİş+olan* の形のみである。*-mAkta+olan*, *-mAz+olan* については、*olan* なしの形では現れない。そのため本稿では、*-(y)EcEK* と *-mİş* 関係節を分析の対象とした。

1 先行研究

1.1 olに関する先行研究

Göksel(2001:151,152)では、トルコ語の補助動詞 *ol*-のふるまいは一定ではない。主節では、完了アスペクトの指標として節の解釈に貢献するが、関係節では単なる形態的な要求でのみあらわれるとしている。

- (1) a. *Genova-yı da gör-müş-tü-m.*(ama pek bir şey hatırlamıyorum.)
Genoa-ACC also see-PERF-P-1 but I don't remember much.
「ジェノバも見ました。(しかしよく覚えていません。)」
- b. *Genova-yı da gör-müş ol-du-m.*(onların peşine takılınca.)
Genoa-ACC also see-PERF AUX-P-1 when I hung around with them
「ジェノバもついに見ることができました。(彼らの後についていて。)」
- (2) a. *Geçen yıl git-ti-ğ-imiz Berlin*
last year go-P-C-1PL Berlin
「去年行ったベルリン」
- b. *Geçen yıl git-miş ol-du-ğ-umuz Berlin*
last year go-PERF AUX-P-C-1PL Berlin
「去年行ったベルリン」

例 1,2 Göksel(2001:157, 160)より

主節において使われる *ol*-は、統語的機能を持った補助動詞としてふるまうため、例 1 の a と b の文章では意味の解釈に違いが起こる。しかし関係節の *ol*-は、統語的機能を持たず、形態的な要求でのみあらわれるため、例 2 の a と b の文章は意味的に互いに交換可能であるとしている。

2.2 olan に関する先行研究

2.2.1 Ozil(1988)

Ozil は関係節における、-(y)EcEK と -(y)EcEK+ol-の選択について次のように定義している。

-(y)EcEK と -(y)EcEK+ol-が、特に“計画された行動(planned action)”の意味で使われる場合には、ol-の使用は任意であるが、主要部名詞が定、もしくは specific な要素であるときにトルコ語のネイティブスピーカーは、-(y)EcEK+ol-を多く使う傾向があるとしている。

- (3) **Bütün saat 17:00'de Moldavya'ya geçecek olan Demirel burada Devlet töreni ile karşılanacak.**

「今日午後 5 時にモルダビアに**移る予定のデミレル**は、ここで国家式典により出迎えらる。」

しかし Ozil は、主要部名詞が定の場合であっても、必ずしも -(y)EcEK+ol-が使われるわけではなく、その選択はやはり任意であるとしている。

- (4) **2-23 Mayıs tarihleri arasında gerçekleşecek 47.Canne Film Festivaline katılacak filmler belli oldu.**

「5 月 2 日から 23 日まで**開催される第 47 回カンヌ映画祭**にエントリーする映画が明らかになった。」

主要部名詞の定不定に関して、Ozil はこの論文の Introduction で Yavaş(1985)の主張を紹介している。Yavaş も -(y)EcEK 単独では多くが不定の名詞とともに用いられるのに対し、-(y)EcEK+ol-は定の名詞とともに用いられる、としている。つまりこの Ozil の研究は、Yavaş の主張とも一致する。

また Ozil は、-(y)EcEK が“目的(purpose)”の意味で用いられる場合、必ず ol-のない形になるとしている。

- (5) **Yakacak odun aldım.**

「私は**燃やすための薪**を買いました。」

例 3,4,5 Ozil(1988:350,356)より

関係節-(y)EcEK と主要部名詞との関係は、動詞とその主語である。その他の要素を修飾

する場合には、一般的には-(y)EcEK+poss が使われる。しかし例 6 では、Yakacak に対する odun は主語の要素ではないが-(y)EcEK が使われている。このように一般的法則が守られていない場合、この関係節に ol-を入れることはできない。またこのように“目的”の用法で主要部名詞にくる名詞(句)は、抽象的(conceptual)で不定のものに限られるため、-(y)EcEK が単独で使われる場合には、主要部名詞が不定のものになりやすい、という主張を支持する例である、としている。このような用法については、3.3 でより詳しくまとめた。

2.2 Göksel&Kerslake(2005)

Göksel&Kerslake は、-(y)EcEK+olan と -miş+olan の olan は省略できる、としている。

- (6) [kömür-de **piş-miş**] patlıcan (cf. kömürde **pişmiş olan** patlıcan)
 coal-loc cook-PF aubergine
 「炭で焼いた茄子」

しかし olan を含む文と省略された(truncated)文との間には意味の違いが生じることもある。olan が省略された関係節はほぼ制限用法である。さらに、olan が省略された関係節の主要部名詞は、非特定の(non-specific)¹で不定である傾向がある。

- (7) a. Masaya **bırakılmış bir not** yeterli olurdu.

「机に置かれたメモで充分だっただろうに。」

- b. Masaya **bırakılmış olan bir notta** kaloriferler, çöplerin toplanması, pencerenin kilitlenmesi gibi konularda bilgiler vardı.

「机に置かれたメモには、 カロリフェル、ごみを集めること、窓を施錠すること、のようなことに関する情報があつた。」

例 7 の a では、実際にはメモは置かれていない。そのため、ここでの bir not は仮定の話であり、非特定のであるため、olan が省略されている。しかし b では、過去形の vardı が、実際にあつたメモを示しているので、特定の(specific)である。そのため、ここでは olan が挿入されている。

¹ 特定性(Specificity)については、3. 分析を参照。

また、非特定のである名詞(句)の代わりに、例8の **bebek** 「赤ん坊」のような、総称的な名詞(句)を続けることもできる。ここでの **bebek** は、特定の赤ん坊ではなく、“赤ん坊一般”を表している。

(8) [Yemeğ-i-ni ye-miş] bebek ağlamaz.

food-poss3s.acc eat-PF

「ごはんを食べた」 子供は泣かない。」

ただし、**olan** が省略された関係節でもしばしば、特定の要素を持つこともある。これは-(y)EcEKの方で起こることが多い。

(9) Sınava girecek öğrenciler burada.

「テストを受ける予定の生徒たちはここにいる。」

一方で、**olan** を含む関係節の方は、制限用法、非制限用法のどちらもありうる。

(10) [Yemeğini yemiş olan] bebek ağlamaz.

「ごはんを食べた」 子供は泣かない。

(11) [Yemeğini yemiş olan] bebek hemen uykuya daldı.

「ごはんを食べた」 その子供は、すぐに眠った。

例 6-11 Göksel&Kerslake(2005:375,455-457) より

2.3 林(1995:209-213)

林によると、未来の形動詞-(y)EcEKは、**olan**を主要部名詞との間にはさむとより書き言葉的になる。また、完了の形動詞-mışは、-(y)An や-dİK、-(y)EcEKといった形動詞ほどに自由ではなく、完了形を含む修飾成分が比較的短い場合に使われる。ただし、-(y)EcEKと同じく **olan** を後ろにつけるとより書き言葉的になると同時に、表現の自由度が増し、形動詞を含む修飾成分が長い場合でも使うことができる、としている。

2.4 Lewis(2000:159)

トルコ語は典型的には SOV 語順であるが、口語では必ずしも語順が守られているわけではない。例えば三人称の未来形で、**Haber gelecek.**「手紙が来るでしょう。」というところを、口語では **gelecek, haber** という形も存在する。そのため、未来の関係節の **gelecek haber** とのあいまいさを防ぐ目的で、関係節の方は **ol-**を一緒に用い、**gelecek olan haber** となると、Lewis は指摘している。これは口語のみの用法であり、もちろん口語における **olan** の用法もこれだけではないと思われるが、他の先行研究とは性質の異なる指摘であった。

3 分析

本稿では、新聞記事から $-(y)EcEK$ と $-mİş$ 関係節を抜き出し、文章を収集した。Lewis の口語の場合の *olan* の用法や、林の、文章を書き言葉的にするという指摘などから考えて、例えば新聞記事と小説や会話文の間には *olan* の機能に違いがあるかもしれない。しかし今回の分析では、まず文体の統一性を図るため、新聞記事のみを扱うことにした。

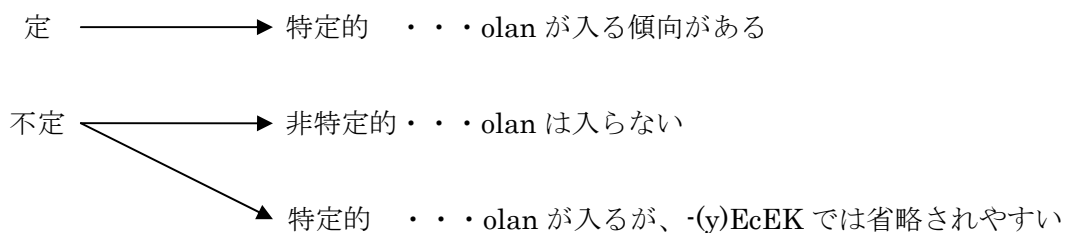
今回使用した新聞は、*Milliyet* 紙、*Hürriyet* 紙、*Radikal* 紙、*Zaman* 紙、*Yeni Şafak* 紙のインターネット記事版と、オンライン新聞の *Son dakika.com* である。またジャンルについてもなるべく偏りのないように、記事を選んでいくようにした。

上記の先行研究から、関係節での *olan* の有無に関しては、関係節の主要部名詞の性質に大きく関わっているようである。*Ozil* は、主要部名詞が不定であれば *olan* が省略され、定の場合は *olan* を含んだ関係節になる傾向があるとしている。また、*Göksel&Kerslake* では、関係節が制限用法で、主要部名詞が不定で非特定のであるときに *olan* が省略されやすく、主要部名詞が特定のであるときは *olan* が入りやすいとしている。

ここで、特定性(*specificity*)に関して、再び *Göksel&Kerslake* によると、「特定性は、定不定と重複するカテゴリーである。定であればすべて特定のであるが、不定の場合は特定のにも非特定のにもなり得る。不定で特定のとは、話し手には周知の存在または事柄で、談話の新しい項目として導入されるが、聞き手が知らないと推測されるものである。一方、不定で非特定のとは、それが話し手にとっても特定できないものである。そのため不定で非特定のは主に、未来形や、仮定の出来事、否定や疑問の文章で起こりやすい。」としている。

図1は、定不定と特定性の関係を示し、そこに先行研究で言われている *olan* の用法を加えた。

図1



3.1 主要部名詞の定不定に関して

Göksel&Kerslake(2005)では、トルコ語の名詞句の定不定に関して以下のように定義している。

不定の場合

- ① 不定の限定詞としての **bir** や他の不定の限定詞(**birkaç, bazı, çok** など)がある場合は、明らかに不定である。
- ② 基数や分配数詞を含む名詞句は、定の限定詞(**bu, her, hangi** など)がなければ不定である。
- ③ 限定詞も基数も含まないが、複数形の接尾辞-**lar** を含むものは、多くの文脈では不定である。

定の場合

- ① 多くの代名詞(**sen** などの人称代名詞、**bunlar** などの指示代名詞)は定である。
- ② 定の限定詞を含む名詞句は定である。
- ③ 人名や、地名、機構名などの固有名詞は定である。
- ④ 名詞句が直接目的語として機能するところでは、対格表示がある場合、多くの場合定となる。
- ⑤ ①～④のように、定の限定詞などがなくても、不定の限定詞がなければ定となることが多い。

まずは、上記の定義を元に、主要部名詞の定不定に関して分析を行った。

不定の場合

- ① 不定冠詞としての **bir** や他の限定詞がある場合

- (12) Raporda, demokratik açılımın bir devlet politikası olarak hayata geçirilmesine verilen öneme dikkat çekilirken, toplumun tümünü **kucaklayacak bir süreç** için sivil toplum örgütlerinin, meslek örgütlerinin, akademisyenlerin, yazarların geniş mutabakat ve katılımının sağlanmasına özen gösterilmesi gerektiği kaydediliyor.

「報告書では、民主的解決が国の政策として実行されることの意味が強調され、社会全体を**包括するプロセス**のために、NGO 組織、職業組合、学者、記者らの広範囲な強調と参加への努力が示されることの必要性が述べられている。」

(2009 年 11 月 20 日付 Milliyet 紙)

- (13) Türkiye'de yargı kararları ile henüz **kesinleşmemiş bazı olaylardaki pek çok görüşme, pek çok iddia gündeme geldi.**

「トルコでは、裁判の判決で**未だ確定**していないいくつかの**事件**について、多くの見解、そして多くの主張が問題となった。」

(2009 年 12 月 09 日付 Milliyet 紙)

- ② 基数や分配数詞を含む名詞句で、定の限定詞がない場合

- (14) Başbakan Tayyip Erdoğan'ın dokuz bakan, çok sayıda bürokrat ve işadamlarıyla birlikte ziyaret ettiği Irak'ta iki ülkeyi **yakınlaştıracak 48 mutabakat zaptına** imza atıldı.

「首相タイプ・エルドアンは、9 名の大臣、多くの官僚や実業家らとともに訪問したイラクで、2 国を**近づける 48 の合意文書**に署名した。」

(2009 年 10 月 16 日付 Radikal 紙)

- (15) THY ile bu sabah saat 06:20'de Sabiha Gökçen'den İzmir ve Adana'ya **gidecek 250 kadar yolcu** sis nedeniyle uçamadı.

「トルコ航空で、今朝 6 時 20 分にサビハ・ギョクチェン空港からイズミルまたはアダナに向かう予定だった**約 250 名の旅客**は、霧の影響で出発できなかった。」

(2009 年 11 月 25 日付 Yeni Şafak 紙)

- ③ 基数詞も配分詞も含まないが複数形の接尾辞を含むもの

- (16) Çünkü oralarda hayvan kiloya girerken tok oluyor, su içmiş oluyor, hayvan ağır gelsin diye **sıkılaştırılmış yemler** veriliyor.

「なぜなら、そこ(スーパーでの売買)では、羊は計りにのるとき満腹にされ、水も飲み、羊が重くなるようにと、**圧縮された餌**が与えられています。」

(2009 年 10 月 30 日付 Radikal 紙)

- (17) Davutoğlu, “Çevre bölgelerde **donmuş krizler**, elimizde patlamaya hazır bombalar gibi. Bunların tasfiye edilmesi lazım. Gürcistan’da yaşadık” dedi.

「ダヴトオール氏は、「トルコの周辺で**膠着している危機**は、我々の手の中で爆発しようとしている爆弾のようです。これらを取り除かれる必要があります。グルジアで我々が経験したように。」と述べた。」

(2009 年 10 月 22 日付 Milliyet 紙)

以上の例から、やはり主要部名詞が不定の場合、**olan** は入らない傾向があることが分かった。しかし、主要部名詞が定の場合にいくつかの例外が見られた。

定の場合

①の代名詞に関しては、主要部名詞が代名詞そのものである例は見つけることができなかった。

② 定の限定詞(bu, her, hangi など)を含む名詞句

- (18) 18 Eylül Stadyumu içinde **yapılacak olan bu spor salonu** iki ay içinde tamamlayarak Triatlon yarışmasına hizmete sunmayı amaçlıyoruz.

「9 月 18 日スタジアム内に**作られる予定のこのスポーツサロン**は、2 ヶ月以内に完成し、トライアスロンの試合にサービスを開始することを目指しています。」

(2008 年 4 月 16 日付 Son dakika.com)

③人名や地名、機構などの固有名詞の場合

- (19) Dışişleri Bakanı Ahmet Davutoğlu'yla **görüşecek olan Okada**, 2010 Japonya Yılı'nın açılış törenine katılacak.

「外務大臣アフメットダヴトオール氏と**会見する予定の岡田氏**は、2010 年日本年の式典に参列する予定である。」

(2009 年 12 月 29 日付 Zaman 紙)

例 19 での Okada は人名であり、固有名詞であるため明らかに定であり、olan も挿入されている。しかし、主要部名詞が定の場合でも、以下のような例文も多く見られた。

- (20) Bugün İSEDAK Zirvesi'ne ev sahipliği **yapacak İstanbul'daki Four Seasons Oteli'nde** dün akşam saatlerine kadar “El Beşir'in Türkiye'ye gelip gelmeyeceğine dair” yapılan spekülasyonların sonu gelmedi.

「今日 ISEDEK(イスラーム諸国経済商業協力委員会)の首脳会議の**会場となるイスタンブールのフォーシーズンホテル**では、昨晚まで、「アル・バシル大統領がトルコに来るか来ないか」の憶測に結論はでなかった。」

(2009 年 11 月 09 日付 Hürriyet 紙)

- (21) Arjantin ve Şili'nin ev sahipliğinde 1-17 Ocak 2010 tarihleriarasında **düzenlenecek 32. Dakar Rallisi'nde** mücadele edecek Kemal Merkit ve Kutlu Torunlar'dan oluşan Dakar Türk ekibi, Buenos Aires'e gitti.

「アルゼンチンとチリで 2010 年 1 月 1 日から 17 日までの間行われる**第 32 回ダカールラリー**に出場するケマル・メルキットやクトウル・トルンラルから構成されるダカールトルコチームは、ブエノスアイレスに向かった。」

(2009 年 12 月 29 日付 Zaman 紙)

例 20 では、こちらも主要部名詞が İstanbul'daki Four Seasons Oteli「イスタンブールのフォーシーズンズホテル」という固有名詞であるにも関わらず、olan は挿入されていない。他にも、例 21 のようにいくつかの例外が見られた。

④名詞句が直接目的語として機能するところでは、対格表示がある場合、多くの場合定となる。

- (22) Fassier, kendisi ile birlikte Agit Rusya ve ABD eşbaşkanlarının, iki cumhurbaşkanı arasında **yapılacak bir sonraki toplantıyı** hazırlayacaklarını söyledi.

「ファシェは、ロシア、アメリカの議長とともに、両大統領の間で行われる**次回の会談の準備**を整えると述べた。」

(2009 年 11 月 22 日付 Yeni Şafak 紙)

例 22 でも、対格表示もあり、*bir sonraki toplantı* は定であるが *olan* は挿入されていない。

以上の例から、主要部名詞が不定の場合は、やはりほとんど *olan* が省略される傾向があるように考えられる。しかし定の場合は、例外が多いように見える。Ozil(1988)では、*olan* の挿入は任意で、定の場合でも必ずしも *olan* が挿入されるわけではないと述べられていた。しかし、新聞記事を読んでいる中で、以下の例 23、24 のような文章をいくつか見つけたため、*olan* の有無が情報の新旧に関わっているのではないかと考えた。

3.2 情報の新旧に関して

- (23) BOTAŞ'ın her geçen gün artan maliyetleri nedeniyle uzun zamandır tartışma konusu olan doğalgaz fiyatlarında gelecek aydan itibaren artış yapılacak. Bakan Yıldız, bu artış oranının kamuoyuna yansıdığı gibi yüzde 50 gibi yüksek bir oranda olmayacağını söyledi ancak şimdiden 2010 yılının geneli için en az yüzde 25'lik bir zam ihtiyacı mevcut. Bunun büyük bir kısmı ise yılın başında yapılacak. Özellikle doğalgaz tüketiminin yoğun olduğu bu kış aylarında **yapılacak zam** ise en çok konut abonelerini olumsuz etkileyecek. Çünkü sanayi kesimine **yapılacak olan zammın** daha aşağıda tutulması düşünülüyor.

「ここ最近毎日上昇する原価のため、長いこと議論のテーマとなっている天然ガスの値段が、来月から値上げされる予定だ。大臣ユルドゥズは、値上率は世論で言われているような、50%のような高い割合にはならないであろうと述べた。しかし、今から 2010 年全体に向けて、少なくとも 25%の値上げは必要である。この大部分が年始に行われる。特に天然ガスの消費が激しいこの冬に行われる**ザム(値上げ)**は、住宅の契約者に最も悪影響を与えるだろう。なぜなら、産業部門に行われる**値上げ**は、より低くとどまると考えられている。」

(2009 年 12 月 23 日付 Son dakika.com)

例 23 では、同じ一段落の中に *yapılacak zam* と *yapılacak olan zam* という、関係節や主要部名詞は全く同じであるが、*olan* が省略されたものとそうでないものの両方があらわれた。これは主要部名詞の *zam* が、後では読者には既出の情報であるため、*olan* が使われたのかと考えられる。もしくは、全く同じ構造のため、同じ表現の繰り返しを避けるために使われたとも考えられる。しかし関係節が異なる文章でも、同じような使用法が見られ

た。

- (24) Antalya Büyükşehir Belediye Başkanı Mustafa Akaydın, 2010 yılında Antalya'da **düzenlenecek Dünya Halter Şampiyonası**'na her türlü desteği vereceklerini söyledi. Türkiye Halter Federasyonu Başkanı Hasan Akkuş, Akaydın'ı makamında ziyaret etti. Antalya'da **yapılacak olan 2010 Dünya Halter Şampiyonası** nedeniyle incelemelerde bulunmak için kente geldiklerini dile getiren Akkuş, . . .

「アンタリア市長ムスタファ・アカイドゥンは、2010年にアンタリアで開催される**世界重量挙げ選手権**に、さまざまな援助を行うと述べた。

トルコ重量挙げ連盟会長の、ハサン・アックシュは、アカイドゥンを公式に訪問した。アンタリアで行われる **2010年世界重量上げ選手権**の調査のためやって来たと述べたアックスは . . .」

(2009年12月29日付 Zaman 紙)

ここでも、同じ主要部名詞を持った関係節が2回あらわれ、後の方で **olan** が使用される。そして、例25の場合、主要部名詞は **Dünya Halter Şampiyonası** であるので、明らかに定であるが、ここでも最初の関係節の部分では **olan** は省略されている。

例23、24の記事、主要部名詞が定の場合でも読者にとって新しい情報である場合には **olan** が省略されるのではないかと考えた。

そこで例19、20を関係節に該当する一文だけでなく、文頭から見てみると、

- (19´) Japonya Dışışleri Bakanı Katsuya **Okada**, iki günlük ziyaret için pazar günü Türkiye'de olacak. Dışışleri Bakanı Ahmet Davutoğlu'yla **görüşecek olan Okada**, 2010 Japonya Yılı'nın açılış törenine katılacak.

「日本の外務大臣**岡田克也氏**は、2日間の訪問のため、日曜日にトルコに来る。外務大臣アフメットダヴトオール氏と**会見予定の岡田氏**は、2010年日本年の式典に参列する予定である。」

- (20´) El Beşir'in bu kararında, Ankara'nın Sudan yönetimine “doğrudan diplomatik yollar” yerine, Türkiye ve uluslararası medyada çıkan haberler üzerinden mesaj vermesi önemli rol oynadı. El Beşir'in, “Türkiye'yi zor durumda bırakmamak”

amacıyla İSEDAK'ın liderler zirvesine gelmeme kararı aldığı bildirildi.

Gelecek - gelmeyecek lotosu

Bugün İSEDAK Zirvesi'ne ev sahipliği **yapacak İstanbul'daki Four Seasons Oteli'nde** dün akşam saatlerine kadar “El Beşir'in Türkiye'ye gelip gelmeyeceğine dair” yapılan spekülasyonların sonu gelmedi.・・・

「アル・バシル大統領のこの決定において、アンカラがスーダン政府に「直接的な外交ルート」の代わりに、トルコと国際メディアで報道にでる情報を通じてメッセージを伝えたことが重要な役割を果たした。アル・バシルは、「トルコを難しい状況に置かないように」という目的で ISEDAK の首脳会議に参加しない決定をしたことが明らかになった。来るか来ないか

今日 ISEDAK 首脳会議の**会場となるイスタンブールのフォーシーズンホテル**では、昨晚まで「アル・バシル大統領がトルコに来るか来ないか」の憶測に結論はでなかった・・・」

例 19 では一文前に **Okada** を説明する文章があらわれているため、関係節が使われたところの **Okada** はすでに既出の情報である。しかし、例 20 では、**ISEDAK の首脳会議の場となる İstanbul'daki Four Seasons Oteli** は、ここでは新しい情報である。また例 22 も記事の冒頭部分であるため、**32. Dakar Rallisi** も読者にとっては新しい情報である。

以上の分析により、私は **olan** が主要部名詞の不定の場合は **olan** が省略されやすく、定の場合は **olan** が使われやすいという傾向に加えて、定の場合であっても、その主要部名詞の内容自体が読者にとっては新しい情報であれば、**olan** は省略される傾向にあるのではないかと考えた。

3 その他の用法

上記で分析を行った-(y)EcEK (+olan)と-mİş (+olan)関係節に関しては、関係節内の動詞と主要部名詞との関係は動詞とその主語である。しかし、この法則を守らずに-(y)EcEK と-mİş 関係節が使われることがある。その場合は olan が入ることはない。

3.1 -(y)EcEK の目的用法

Ozil は、-(y)EcEK 関係節が、“目的(purpose)”の意味で用いられる場合、olan は挿入されない、としている。しかしその用法の場合、関係節と主要部名詞との関係は、動詞とその主語との関係にはならない。今まで見てきた例では、関係節と主要部名詞の関係が動詞とその主語であり-(y)EcEK が使われているが、動詞とその他の要素の場合は例 25 のように-(y)EcEK+poss が使用される。

- (25) [Fatma'nın yarın **gör-eceğ-i** film
Fatma-gen tomorrow see-part.poss3s film
「ファトマが明日見る映画」

Göksel&Kerslake(2005:442) より

例 25 では、関係節内の動詞と主要部名詞は、動詞とその目的語の関係になっているため、-(y)EcEK+poss が使用されている。ところが、以下の例 26、27 ではその法則があてはまっていない。

- (26) **Yakacak odun** aldım.
「私は燃やすための薪を買いました。」

- (27) Bazı apartmanların arasında yol **geçecek yer** kalmamış.
「いくつかの家々の間には道が通れるような場所が残っていなかった。」

Ozil(1988:356)より

例 26 も 27 も関係節内の動詞と主要部名詞との関係は動詞とその主語ではないが、-(y)EcEK が使われている。このように、「～するための」や「～すべき」といった“目的”

を表す場合には先ほどの一般的法則に違反して、-(y)EcEK を使用しなければならない。そして、この用法では **olan** が入ることはできない。

(28) "Belki eşim yaşasaydı bu işi bu kadar uzatmazdım." diyor ve ekliyor: "Evde **yapacak iş** kalmadı, . . ."

『たぶん、夫が生きていたらこの仕事をこれほど続けていなかったでしょう』と彼女は言い、次のように加えた。『家には**すべき仕事**は残っていません . . . 』

(2009 年 02 月 21 日付 Zaman 紙)

またこの用法は、‘için’ を使った文章に書き換えることができる。

(26´) **Yakmak için** odun aldım.

(27´) Bazı apartmanların arasında yol **geçmek için** yer kalmamış.

この用法は-(y)EcEK のみに使用される。

3.2 外の関係

寺村(1993)では、日本語の連体修飾には「内の関係」と「外の関係」があるとしている。以下の日本語の例は寺村(1993)からの引用である。

内の関係(付加的修飾)

「さんまを焼く男」

外の関係(内容補足的修飾)

「さんまを焼く匂い」

「さんまを焼く男」は、「男がさんまを焼く」の「男」を連体修飾したもので、文中の一要素である。しかし、「さんまを焼く匂い」の「匂い」はもともと文中の一要素ではない。日本語の連体修飾のこのような関係を寺村は「外の関係」と呼んでいる。日本語で「外の関係」を表す名詞は決まったもののみであり、寺村は以下の4種類に分類している。

1. 『人生は地獄よりも地獄的である』という言葉
→「言葉」や「思い」などの発話、思考の名詞
2. 「彼は九年前九州八幡に居住した事実があり、・・・」
→「事実」や「習慣」など「コト」を表す名詞
3. 「だれかが病室の扉をそっと開ける気配」
→「姿」や「感触」などの感覚の名詞
4. 「母が死んだ翌日から、・・・」
→「前」や「上」など、相対性の名詞

このような日本語の「外の関係」は、例えば英語では、関係節で表すことができず、of を用いたり、**that** を用いた同格構文で表す。トルコ語でも、このように「外の関係」を表す場合には、関係節ではなく名詞句の複合(compound)の形で表す。Haig(1998)では、これを “Non-relative attributive clause” と呼んでいる。

- (29) [ben-im bu kitab-ı oku-duğ-um] iddia-sı
 I-gen this book-acc read-PP.poss1s claim-poss3s
 「私がこの本を読んだという主張」

- cf. [benim oku-duğ-um] kitap
 I-gen read-PP.poss1s book
 「私が読んだ本」

例 29 の okuduğum は一見関係節と同じ形をしているが、関係節ではなく形動詞が名詞化した名詞句である。ここでは、名詞の複合の場合に現れる三人称の所属人称接尾辞の-(s)I がその違いを表している。つまり関係節と、この「外の関係」を表す “Non-relative attributive clause” との最も大きな違いは、主要部名詞に三人称の所属人称接尾辞である -(s)I が現れているかどうかである。

また、名詞句の複合という形ではなく、所有格を用いて表すことができる場合もある。

- (30) [Bas-ıl-an tüm gazete-ler-in sat-ıl-acağı-nın]
print-pass.FP all newspaper-pl.gen sell-pass.futPP.poss3s.gen

garanti-si yok.
guarantee-poss3s not exist(3s)

「印刷された全ての新聞が売られるという**保障**はない。」

例 29、30 Haig(1998:104,106) より

ただし、例 30 のように所有格を用いて表す方法は全ての場合に使用することができるわけではない。例えば例 29 では名詞の複合のパターンのみがネイティブにとっては許容されるようである。

さらに、上記の名詞の複合や、所有格で「外の関係」を表す用法に加えて、-(y)EcEK や -mİş 関係節を使って「外の関係」を表すことがある。

- (31) Bu sistemin, huzur, dostluk ortamı yaratmadığı gibi, tersine, sorunları hergün derinilenleştirdiğini savunan Ahmedinecad, gelişmiş ve gelişmekte olan ülkeler arasında uçurumu derinleştirdiğini, içinden **çıkılmayacak hale** soktuğunu dile getirdi.

この仕組みが平安で友好的な環境を生み出さなかったように、かえって問題を日々深刻なものとしていると主張したアフマディネジャド大統領は、先進国と発展途上国の間で危機を深めてしまい、そこから**出られない状態**にまでなってしまったと述べた。

(2009 年 11 月 09 日付 Radikal 紙)

上記の例文も hal (状態) は **çıkılma**-(出られない) に対する主語の要素ではない。しかしここでは、目的語の関係でもないので 3.1 の-(y)EcEK の目的の用法とも使われ方が異なっている。hal(状態)はむしろ「先進国と発展途上国の間で危機を深めてしまった」中身全体という関係にあり、日本語の「外の関係」と同じ働きをしている。

また上記の-(y)EcEK の目的の用法は-(y)EcEK のみに限られていたが、この用法では-mİş 関係節でも用いることができる。

- (32) Hachikian, Obama'nın, 1915 olayları konusundaki sözlerini tutmak yerine, "tam

tersi istikamete gittiğini ve **kuşatılmış haldeki** Ermenistan'ın kolunu bükmek için diplomasinin tüm gücünü seferber ettiğini" söyledi.

「ハチキアン氏は、オバマ大統領が 1915 年アルメニア人大虐殺の事件に関する約束を守るのではなく、「全く逆の方向に進んでしまい、**包囲された状態**のアルメニアを苦しめるために全外交力をつぎ込んでいる」と述べた。」

(2009 年 10 月 10 日付 Zaman 紙)

-(y)EcEK や-mİş 関係節を用いて「外の関係」を表す場合、特に以下のような単語が多く使われていると感じた。

- durum (状態、様子)
- boyut (規模、状態)
- düzey (水準、レベル)
- şekil (形、様式)
- tür (種、種類)

- (33) "Müzedeki tarihin en kapsamlı restorasyonunu gerçekleştiriyoruz. Derviş hücrelerinde bulunan 17 hücrenin kasnak bölümü ortaya çıkarılacak.Hücrelerin arasındaki tüm duvarlar **kaldırılmış durumdaydı**. Biz yeniden hücreleri böleceğiz. . . .

「博物館の歴史上、最も包括的な修復を行っています。デルヴィシの宿坊にある 17 の小部屋の部屋の仕切りの部分が見えるようになります。小部屋の間にある全ての壁は**取り除かれた状態**でした。我々は再び小部屋を一つ一つ分けます . . . 。」

(2009 年 11 月 20 日付 Radikal 紙)

- (34) Arat, projenin 52 bin seyircinin stadın neresinde oturursa otursun sahanın tamamını **görebilecek şekilde** tasarlandığının da altını çizdi.

「アラト氏は、5 万 2 千人の観客がスタジアムのどこに座ろうと、競技場全体を**見渡せるような形で**このプロジェクトは設計されていると強調した。」

(2009 年 12 月 03 日付 Milliyet 紙)

- (35) Yıllardır görülmeyen, ihmal edilen birçok husus, bu kriz nedeniyle artık gözardı **edilemeyecek boyut** kazandı.

「長年の間見られずに、無視されてきた多くの問題は、今回の危機によってもはや**見過ご**

せない規模になっている。」

(2009 年 10 月 06 日付 Hürriyet 紙)

トルコ語で「外の関係」を表す場合、基本的には“Non-relative attributive clause”である名詞句の複合という形が用いられる。しかし、ある一定の単語では-(y)EcEK や-mIş 関係節を用いて表すことがある。どのような場合にこれらの選択がなされるかについては、ここでははっきりと示すことができなかった。また、トルコ語の外の関係に関する先行研究はまだ少ないため、今後の課題としたい。

3.3 関係節の形容詞化

関係節には、特定の単語と結びついてイディオム的になっているものや、すでに形容詞化しているもの²も見られる。そのような場合も *olan* が挿入されることはないと思われる。

イディオムになっているもの

- ・ *gel-* : 来る → *gelecek hafta* : 来週
- ・ *geliş-* : 発展する → *gelişmiş ülkeler* ; 先進諸国

関係節が形容詞化したもの

- ・ *ol-* : ある、存在する → *olacak* ; ありそうな、あるはずの
- ・ *ol-* : できる → *olamamış* ; 熟していない
- ・ *tanın-* : 知られる → *tanınmış* ; 知られた、有名な

(36) Başbakan Erdoğan **tanınmış** Mısırlı gazeteci Fehmi Huwaidi ile yaptığı söyleşide İsrail'in casusluk amacıyla Türk hava sahasına girdiği söylentilerini yalanladı.

「エルドアン首相は、**有名な**エジプト人新聞記者フェフミ・フワイディとのインタビューで、イスラエルがスパイ目的でトルコ領空に侵入したといううわさを否定した。」

(2009 年 12 月 10 日付 Radikal 紙)

ただし、これらの単語が、形容詞化した意味ではなく、本来の単語の意味で使われる場合には、もちろん *olan* が入ることもある。

² ここでは、形容詞化した関係節としては、辞書にすでにその形で記載されているものとした。

ol- ; 〜になる

- (37) Yapımına 21 Eylül 2004 tarihinde başlanan ve dünyanın en yüksek binası **olacak olan Burj Duabi'nin** açılışı 4 Ocak 2010'da düzenlenecek bir törenle yapılacaktır.

「建設が 2004 年 9 月 21 日に始められ、世界で最も高い建物となる予定のブルジュドバイのオープンが、2010 年 1 月 4 日に行われる式典で行われる。」

(2009 年 12 月 29 日付 Zaman 紙)

4. おわりに

本研究を通して、トルコ語の関係節で使われる **olan** は、主要部名詞が不定であったり、また定であっても読者(聞き手)にとって、新たな情報が主要部名詞で導入される場合は、省略される傾向があると考えた。**olan** は主要部名詞が既出である場合、多く使われる傾向があるようである。トルコ語には英語の “the” のような定冠詞はないが、関係節での **olan** は定冠詞のような役割を果たしているのではないだろうか。

今回の分析は-(y)EcEK も-mİş 関係節も特に区別せず行ったが、両関係節において、**olan** の使用には違いがあるかもしれない。また、関係節ではなくても、例えば **kapağı boyalı olan bir kutu** 「ふたが塗られた箱」のように形容詞が修飾する場合でも、**olan** が省略されることがある。このような場合、本稿で分析を行った関係節のときとの共通点はあるのだろうか。今回の分析や先行研究とあわせながら、関係節だけではなく、**olan** 全体についての用法を明らかにすることを今後の課題としたい。

[主要参考文献]

- Asıl Göksel. 2000. “Syntactic head or morphological buffer? The dual status of *ol*” . In *Studies in Turkish linguistics : proceedings of the Tenth International Conference in Turkish Linguistics*, A.Sumru Özsoy (edit.), 49-58. İstanbul : Boğaziçi University Press
- Asıl Göksel. 2001. “The auxiliary verb *ol* at the morphology-syntax interface” . In *The verb in Turkish*, Erguvanlı-Taylan,E.(eds.), 151-181 Amsterdam ; Philadelphia : John Benjamins
- Asıl Göksel and Celia Kerslake. 2005. *Turkish: a comprehensive grammar*. 452-457 Routledge : London
- Geoffrey Haig. 1998. *Relative constructions in Turkish*. 102-106 Wiesbaden : Harrassowitz Verlag
- Geoffrey Lewis. 2000. *Turkish grammar* 159 Oxford ; Tokyo : Oxford University Press
- Şeyda Ozil. 1998. “ The choice of relative participles *-(y)EcEK* and *-(y)EcEK+ol-*” . In *The Mainz meeting : proceedings of the Seventh International Conference on Turkish Linguistics*, L. Johanson, with É. Á. Csató, V. Locke, A.Menz & D. winterling (eds.), 348-360 Wiesbaden: harrassowitz.

寺村秀夫 『寺村秀夫論文集Ⅰ -日本語文法編-』 157-320 1993 年

林徹 『トルコ語 文法の基礎』 209-213 東京外国語大学語学教育研究協議会 1995 年